国際ワークキャンプ in Togo 参加レポート

石野紗也子

2012 年 5 月執筆

Togo Ahépé で国際ワークキャンプ

期間：2012 年 2 月 20 日～3 月 13 日

1)　地域の特徴

日本からトーゴへの直行便はなく、フランス、パリを経由。国内唯一の空港があるロメから入国し、車で 2 時間かけて滞在先のアヘペへ移動した。

首都のロメはトーゴの南西に位置し、南は海、西はチョコレートで有名なガーナに面している。

国内の主な町は舗装された道路で結ばれていて、乗り合いタクシーで移動することができる。ただし、アスファルトは穴だらけ。バス(もしくはタクシー)と呼ばれるワゴン車には、日本の通勤ラッシュ並みに客を詰め込む。私の体験した最高は 19 人!

アヘペは道路に面した町だが、通りから少し中に足を踏み入れただけで、数百年前からおそらく変わっていないであろう村の風景が広がる。未舗装の道は車で進めないので、活動地であるエッセ・ゾベジ村へはモト(バイク)タクシーで 20 分ほどかけて行かなければならない。

自分の他に黒人以外の人を見かけることはまずなく、現地の子どもは「ヨボ(白人)、ヨボ、ボンジュール」と好奇心いっぱいに寄って来る。ここでは黒人ではない＝白人となるらしい。幼児は怖がって泣き叫ぶ子が多くてけっこうショックだった。

2)　主催団体

Frères AGriculteurs et Artisans pour le Développement (FAGAD)：トーゴの NGO
http://www.fagad.org/

日本の NGO、NICE(http://www.nice1.gr.jp/)からの紹介で申込。

3)　ワークキャンプの公用語

フランス語、実際は英語を多用。現地はエヴェ語。

現地人は現地語であるエヴェ語で会話しているが、小学校から公用語であるフランス語で教育を受けているため、小さい子でもかなりしっかりフランス語を話せる。中学校から英語も習うので、英語もかなり通じる。2 年前から小学校が無償化されたとのことで、就学率も高いよう。ただし、諸々の理由から十分な教育を受けられなかったり身につかなかったりした人もやはりいて、特に大人の女性は英語やフランス語がしゃべれない人が多かった。

私はワークに関しては英語、ホームステイ先の家族や近所の人とのコミュニケーションにはフランス語を使っていた。

(当初はフランス語のみの覚悟で行ったけど、私のフランス語理解力が低くて、英語のほうが通じやすかったので担当者や友人は英語に合わせてくれた)

目次

1)　地域の特徴 1
2)　主催団体 1
3)　ワークキャンプの公用語 1
4)　ボランティアワーク 2
5)　宿泊施設 3
6)　食事 3
7)　フリータイムの活動 4
8)　全体を通して 4
9)　旅行編 5
10)　最後に 5

4)　ボランティアワーク

分野

教育サポート・建設

背景・目的

案内書　記載内容	実際
「・地域住民に、十分で適切な教育の枠組みを提供すること。そのために、中学校の校舎を建設する。 ・子どもたちが、異なる文化を持つ人々と出会い、自分たちが知らない遊びなどを通して視野を広げること。さらに、このプロジェクトによって、子どもたちの親には自由時間がもたらされる。」	中学校の校庭に、図書館の建物を建設する。生徒は教科書を持っていないので、図書館で本を読むことができれば学習の助けとなる。

活動内容

案内書　記載内容	実際
「・掃除、砂やレンガ集め、水さがし、壁造り　・教育サポート(休日の補講) ・ゲーム、図工、スケッチ、歌、ダンス、勉強などについての子供のサポート　・遠足の引率」	8)参照 全活動期間(2 週間)を通して 3 日、1 日実質 3 時間程度 オリエンテーションなし(滞在先担当者と都度相談) 総括・反省会なし

参加者

１ヵ国から１名！！国際ワークキャンプは数カ国からメンバーを集めて開催されると聞いていたが、まさかの自分だけ。

地元住民の参加者

大工 2 名、政府派遣のボランティア(大学卒業後、職がない若者)1 名

成果

図書館（ほぼ完成済）に一部壁を付け足すための材料として必要なブロック 60 個中 29 個を運んだ。

課題

主催団体である FAGAD に非常に問題がある。

・ワーク内容の問題

ワーク内容が定まっていないのにワークキャンプを開催している。主催団体である FAGAD が責任・機能を果たしておらず、滞在先の担当者（職員ではなく、厚意で協力しているだけらしい）に連絡も不十分なまま丸投げしている。私は本来の開催期間から 1 週間遅れて到着したが、着いた後で彼がワーク内容を組んでくれた。（「図書館はほとんど完成しているので、今できるワークはほとんどない」と言っていた。）

また、参加者が 1 名しかいないのであれば開催を見合わせるべきではなかったか。

・金銭面の問題

NGO から担当者へ渡されるべき必要経費も十分に渡されていないようで、足りない分は持ち出しになっている様子。空港に迎えに来てくれた職員に私から追加登録費を払い、その中から滞在先担当者に必要経費が渡されたが、おそらく全額ではない。金額は未確認だが、現地の物価からして足りないということはありえない。

・全体

滞在先担当者にも生活があり、私の面倒ばかり見ているわけにはいかないのは当然。(実際、身内の不幸や家族の病気で不在になることが多かった)。そもそも彼一人に全てを任せていることが問題。

現地団体への提案や、参加者へのアドバイス

個人的には FAGAD のプログラムには参加しないことをお勧めします。

5)　宿泊施設

滞在先担当者宅と庭を共用する空き家の一室

シャワーはなく、毎日バケツ 1 杯の水で水浴び。

これだけの水で洗濯も。

寝床には。スポンジ製のマットを用意してくれた。持参した蚊帳と、キャンプマットをセットして寝た。

は作業場のある村に宿泊する予定だったが、滞在当初先担当者がモト(バイク)で 20 分の隣村に住んでいると聞き、連れて行ってもらえるように頼んだ。あんなところに一人で放置されたかもしれないと思うと、生きた心地がしなかった…

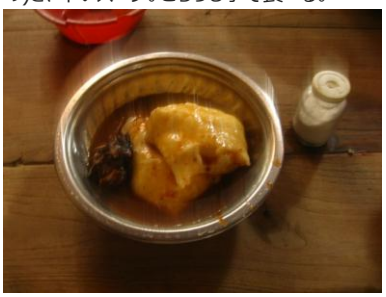
6)　食事

朝食　たっぷりのココアとパン

昼食・夕食

パット(トウモロコシの粉をお湯で練ったもの)。手でちぎって辛いスープ（鶏肉、魚、または野菜)につける。

フーフー(ヤムイモやキャッサバでできたおもちのようなもの)と、辛いスープ。こちらも手で食べる。



フーフーを作っているところ

スパゲッティやライスにも辛いソース。

ミネラルウォーター

ペットボトルの水がどこでも簡単に手に入った。ピュアウォーター(パック詰めの水)はよく冷えている。歯でビニールを噛みちぎって飲むのが現地のスタイル。

おやつ

アイスクリーム売りのおじさん。冷たいジュースも買えます。

固めのポップコーンがポピュラーなおやつ

フライドポテトとフライドバナナ

7)　フリータイムの活動

内容		感想
討論会	FAGAD について	他の部分参照
	宗教について	トーゴで今も根強く信じられているアミニズムについて。日本の状況も。彼らと話すことで、日本での宗教観も「仏教」とか「無宗教」で片付けずに深く考えることができた。
	トーゴの政治に一番影響を持っているのは誰か(旧宗主国フランス、世銀、ユニセフなど)	談笑しているうちにトーゴ人とフランス人の間で激論が始まってしまい、私は理解できなかった(あとで教えてもらった)が、若者が政治についてこんなに熱く語る場面は日本ではあまり見たことがないので刺激的だった。
遠足		最初の週末にロメに住む友人たちを訪問。これで彼らと仲良くなって、次の週末にも行った。そのまま FAGAD とは決別…
スポーツ		トーゴ人ボランティアが、フットボールチームに所属していて、試合に招待してくれた。トーゴ人はサッカー大好き。
パーティ		バーにはよく行っていた。家でも、自家製のソラビ（パームワイン。非常に強い！）をよく勧められた。トーゴでは子供も飲酒が認められているらしく、がんがん飲んでいた。いいのだろうか…

8)　全体を通して

典型的な一日のスケジュール	
6:30~8:30	起床・シャワー・朝食
13:00～14:00	朝食
14:00～16:00	学校・地域訪問など or ワーク
16:00～20:00	昼食
16:00～20:00	フリーor ワーク
20:00～22:00	フリー、就寝

一週間のスケジュール	
平日	学校・地域訪問など or ワーク
休日	ロメ滞在

良かったこと／感動したこと

友人たちと出会えたこと。隣人たちと仲良く暮らせたこと。

残念だったこと／トラブル・事故・病気

・5 日目にお腹を壊した。翌日に多少改善したが、完治するまで 1 か月半かかった。基本的に水は買ったものだけを飲んでいたが、現地人の料理したものを食べる以上、生水を一切口にしないことは不可能だった。調理に多用しているようだったので(特にフーフー)。

・蚊に刺された。マラリアが心配…

・たくさんの人からカネをくれ、モノをくれと言われてナーバスになった。

・FAGAD では充実した活動をしているケースもあるようですが、もし現地に行ってみてやはり問題があると感じたら、途中でその団体から離れることを検討されてもよいかと思います。せっかく来たのだから、不満だけ残して終わるのではなく、有意義な滞在にできるよう全力を尽くすべきだと学びました。

9)　旅行編

全体日程

日本発：2 月 22 日 エールフランス(FIX)　到着都市：フランス、パリ

ワークキャンプ前後　パリ周辺を観光後、エールフランスでトーゴへ。トーゴでのワークキャンプ参加後、フランスで 1 週間別のワークキャンプに参加。

総費用

約 38 万 3000 円

内訳　NICE 参加費：約 29000 円、追加登録費：約 18500 円、ワークキャンプ中の出費：約 6000 円(→内訳:ロメ～アペペ移動 8 回＝1500 円、モト移動複数回＝約 1000 円、フリータイムの食費など=1500 円、ホストファミリーへの医療費援助＝1000 円、土産代=1000 円)、航空運賃：約 235000 円、空港～開催地の交通費：約 5000 円(自宅～関西国際空港往復)、旅行保険：約 12000 円、自由旅行中の費用：約 35000 円(2 つのワークキャンプを組み合わせたので、トーゴの前の 1 週間のみ計算)、その他：約 42000 円(トーゴのビザ=11000 円、黄熱予防接種(必須)=11000 円、A 型肝炎予防接種(任意)=10000 円、ポリオ予防接種(任意)=5000 円、マラリア予防クリーム=2000 円、蚊帳=3000 円)

▼ソラビ蒸留中

▼トーゴ名物 Flag ビールをストローで！

持ち物

★あって便利だったもの：軍手、携帯ライト

★なくて困ったもの：　サングラス

旅先でのアドバイス

トーゴを個人で旅行するのはなかなか難易度が高いと思う。日本語のガイドブックは出版されておらず、Lonely Planet という英語のガイドブックの「西アフリカ」に数十ページ載っていたが、あまり役に立たなかった。現地に観光案内所はない。観光客に容易に手に入るような地図もない。

金銭トラブルなど

・ロメ空港で何度か職員から金銭を要求されたが、言葉がわからないふりをして、英語で「トーゴめっちゃいい国！大好き！みんな親切！！」と唱えまくっていたら苦笑い（？）で開放してくれた。

・ロメ空港へは職員が迎えに来てくれたが、宿泊先まで彼は自分のモトで移動し、私はタクシーに乗せられた。彼はドライバーのことをよく知っていると言っていたが、車内で費用として 10 ユーロ要求された。何度も「早く出せ」と言われたが、「着いてから払う」と言い張って、着いてから職員に言うと、彼が払ってくれた。いくらかわからなかったが、本来私が払うべき費用ではないし、後に知った相場からして 10 ユーロは高すぎる。乗る前に職員に確認しておけばよかった。

・ロメから開催地へは初回、一人で移動させられた。職員が「タクシードライバーに全て説明してお金も渡してある、現地に着くまで何も心配するな」と言っていたが、乗り継いだモトのドライバーにタクシードライバーから渡されるべき運賃が渡されておらず、2 重に支払う羽目になった。事前に職員へしっかり説明を求めるべきだった。

10) 最後に

今回トーゴに行ったことはかけがえのない、とてもよい経験になりました。それは素敵な友人たちと出会えたことによるところが大きいです。

彼らは数年前に FAGAD でボランティアをしたことがあるトーゴ人やフランス人で、現在は FAGAD に見切りをつけて自分の団体を作って活動しています。私の置かれている状況を聞いた結果、「このまま留まっていても意味がないので、自分たちと一緒にいた方がいい」と言ってくれ、最後の数日はロメの彼らの家に泊めてもらって、ロメを案内してもらったり、彼らの活動を見学させてもらったりしました。最終日には彼らが空港まで送ってくれました。みんな「初めてアフリカに、トーゴに来て悪い経験をして残念だった。これがトーゴだと思わないでほしい。」と口をそろえていました。

私自身は当初はそこまで問題を認識していなかったものの、出発前に NICE からも団体があまりしっかりしていないという情報があるとは聞いていたし、「これがアフリカなのかな～仕方ないのか～」と軽く失望し始めていたのは事実です。そんな時にアンチ FAGAD の人たちと仲良くなって、感化された部分はあるかもしれません。しかし、今一度振り返ってみても、やはり FAGAD には問題があったと確信しています。

今回のワークキャンプをきっかけに、これからも、日本とトーゴをつなぐ活動を続けて行こうと思っています。

最後になりましたが、NICE のスタッフの皆様、駐日トーゴ共和国大使館の皆様、日本トーゴ友好協会の皆様、他にも今回トーゴへ行くにあたってサポートしてくださったすべての方に感謝いたします。